**２０番目の『満月の季節』**

（**世界俳句協会創立20周年のお祝い**）

**ダオ・テイ・ホ・フォン（ベトナム・ハノイ）**

1. 子供のように

成熟した

20歳

1. 俳句の愛

友好連結

国境を越えした

1. ベトナムと日本は

遠く所だが、近くなった

俳句のおかげで

日本では昔から少年達が大人になった時、祝う習慣と記念日がありました。二十歳に達した人は大人として認められ、成人式と呼ばれる式に参加することができます。

幼少期から幼児期、成人時期、そして人生への初めの一歩プは、各個人の育成、教育、自分自身の努力の絶え間ない努力が必要とするプロセスです。これは「人を植える」分野だけでなく、あらゆる点で詩や詩の執筆も例外ではありません。和歌、短歌、俳句などの伝統から培われた甘い果実を持っていた日本の詩は、浮き沈みにもかかわらず、「 扶桑の国」という国の境界を越えて、それらの甘い果実の香りを広げてきました。時代の流れに合わせ、新しい俳句風を作る傾向がありました。

詩人は俳句を日本語だけでなく、自国の言語でも作成しています。この傾向は、世界俳句協会（WHA）が設立されてから世界俳句協会の乾昌幸会長（俳号：夏石番矢）によって、二十年間、ずっと実施されてきました。伝統的な俳句を継承し、一貫して維持する事に基づいています。俳句の定型を基本とする[定型詩](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%9A%E5%9E%8B%E8%A9%A9)であるのを維持されています。

2019年9月13日から15日にかけて東京における開催された世界俳句協会創立20周年の際、世界から18か国の参加した代表者の声をはじめ、「俳句は未来を多言語で語られる」という記事のタイトルによって、統合は現代俳句の避けられない傾向です。そして、俳句は複数の言語で書かれば、国間の距離が近くなると言われています。

ベトナムにおけるハノイの俳句クラブは、設立以来、十二年が経過しました。特に俳句世界協会の会員として参加してから、夏石番矢会長をはじめ、熱心な支援を通じて、世界中の俳句の流れに合わせて、俳句の愛を共有する世界中の友人とベトナムの俳句を密接に結び付けました。

遠く離れたベトナムより、世界俳句協会創立20周年の設立の素晴らしいイベントの際、深い感謝とおめでとうを言いたいと思います。俳句の花の香りがもっと広っていくことを祈りしております。